

おわりに

術後経口摂取までの期間はR群で短く、イレウスの発生も少ない傾向にあった。手術時間、術後排ガス、排便までの期間、術後合併症の発生には差はなかった。イレウスを避けるために経後腹膜到達法は有利であり、今後も第1選択とすべきと考えている。

文 献

- 1) 石坂透、安藤太三、中谷充ほか：腹部大動脈瘤における術式の選択－開腹法か腹膜外到達法か－。日心外会誌 24：85－88, 1995.
- 2) 佐藤一喜、金城正佳、西山直久ほか：腹部大動脈瘤手術における正中開腹法と左傍腹直筋後腹膜到達法との比較検討。日血外会誌 6：809－814, 1997.

- 3) 田口泰、木村壮介、渡辺拓自ほか：腹部大動脈瘤における腹膜外到達法の検討。日血外会誌 4：537－542, 1995.
- 4) Williams, G. M., Ricotta, J., Zinner, M. et al. : The extended retroperitoneal approach for treatment of extensive atherosclerosis of the aorta and renal vessels. Surgery 88：846－855, 1980.
- 5) 羽賀将衛、大谷則史、清川恵子ほか：腹部大動脈、腸骨動脈領域における傍腹直筋切開と腹部横切開の比較。日心外会誌 27：293－296, 1998.

悠久の長江三峡下り

院長 久保田 宏

第2回目の名寄日中友好協会訪中の旅は、「長江三峡下り」を選んだ。NHKで放映された「大地の子」に影響されたのと、揚子江にダムが完成すると、長江の景勝のほとんどは見られなくなると聞いたからである。

また、長江の三峡周辺は三国志の舞台であり、曹操・劉備・孫権、そして諸葛孔明などが活き活きと想像され、中国史の勉強にもなると考えたからである。

全長6380キロ、中国第一、世界第三位の長さを誇る長江は、日本では明治以来、河口、揚州あたりの呼び名の「揚子江」として親しまれてきた。三峡下りの出発地重慶では、河幅は800メートル。しかし、四川省と湖北省の境あたりになると、西岸は大巴山山系の2000メートル近い山々が迫る峡谷となり、川幅は100メートルほど。このあたりが三峡下りの見どころとなる。われわれ20名は重慶から三峡の出口の宜昌まで、2泊3日の船旅、三峡の景観を満喫した。

三峡でも最も雄大壮観な第1の峡谷・瞿塘峡、幻想的に美しく、山水画廊のような第2の峡谷・巫峡、急流逆巻く難所の多い第3の峡谷・西陵峡、日本では見ることのできない景勝に感動した。また、瞿塘峡を望む白帝城も下船し見学した。夜であったのが残念であるが、華やかな大門に入ると、劉備が諸葛孔明に息子の劉禪を託す場面が塑像で再現されている託孤堂があり、いきなり三国志の世界に吸い込まれていった。

西陵峡を過ぎると河幅はぐんぐんと広がり、雄大な長江となるが、ここでは三峡ダムの建設が進んでいた。今世紀最大の土木工事といわれ、洪水防止、発電、灌漑用と多くの目的を持ったダムで2009年に完成される。その規模は黒部ダムの約260倍というから、完成すれば三峡の景勝はほとんど失われる。それがよいのかどうかかわからないが、帰国する時の飛行機内から見た、武漢周辺の長江の洪水状況から考えると、長江ダムは必要なのかも知れない。

中国5000年の歴史を見つめてきた長江と共に三峡の景勝をゆっくり見得たことに幸せを感じた。三峡下りの途中、テレビ「大地の子」で実の親子が、枕を並べて語るシーンを思い出した。あの船より遙かに立派な船が行き交わっていた。私がああ「大地の子」を見て感動したのは、養父の知性に対してである。日本ではあまり見かけなくなった尊い父性にとめどない涙があふれ、畏敬の念を覚え、船旅第1日目の夜は眠ることができなかった。

改めて日中友好の大事さを胸に秘め、4泊5日の旅を終えた。